琉球大学学術リポジトリ

研究室紹介（琉球大学農学部森林生産環境学講座）

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017189

琉球大学農学部森林生産環境学講座

本講座は，平成３年の学科改組によって旧林学科の熱帯造林学講座と森林保護学・森林工学講座の統合によるもので，生産環境学科の４講座のうちの１講座である．

本講座は，多くの島々からなる島嶼環境下にある国内でも唯一亜熱帯に属する大学にある．島嶼環境は人的撹乱により大きく変動する不安定な生態系であり，このなかで森林が果たす役割とその保護及び計画的利用方法に関する教育・研究を行っている．

平成9年4月からは教養部からの分属で，教授黒田登美雄が本講座の教育・研究および講座の運営に加わり大変助かっている．

現在，本講座構成員の教育の分担と研究テーマは次のとおりである．教授幸喜善福は砂防学，森林防災学を中心とした科目の担当と研究を行っている．陸上に飛来する塩分に関心を持ち，1)飛来塩分の防止・抑制等に関する研究，2)海岸防災林及び海岸保全等に関する研究に取り組んでいる．教授黒田登美雄は環境情報科学及び花粉分析学関係の科目の担当と研究を行っている．現在1)地下水の水収支シミュレーション，2)花粉分析による気候変動の解析，3)マングローブ・地下水等の環境情報のデーターベースに関する研究等に取り組んでいる．助教授中須賀常雄は造林学，森林生態学を中心とした科目の担当と研究を行っている．国内で唯一分布するマングローブに関心を持ち，現在1)森林及びマングローブの造林並びに生態に関する研究，2)樹木及び海岸植物等に関する研究に取り組んでいる．助教授佐藤一紘は森林環境論，リモートセンシング概論を中心とした科目の担当と研究を行っている．現在，1)沿岸での防災・修景へのマングローブの利用に関する研究，2)森林の防災機能の機構に関する研究，3)リモートセンシングのマングローブ林への適用に関する研究等に取り組んでいる．助教授馬場繁幸は島嶼生物学，樹木遺伝学を中心とした科目の担当と研究を行っている．マングローブに関心を持ち，現在，1)マングローブの生態遺伝学的研究，2)マングローブの造林に関する研究，3)針葉樹の細胞遺伝学的研究等に取り組んでいる．助手亀山統一は樹病学実験，森林土壌微生物論実験を中心とした科目の担当と研究を行っている．現在，1)リュウキュウマツ漏脂胴枯病に関する研究，2)リュウキュウマツ材線虫病に関する研究，3)マングローブ構成樹種の病害に関する研究等に取り組んでいる．

本県は島嶼からなるため，海岸線延長が1,744kmで北海道，長崎県，鹿児島県につぎ国内で4番目に長い海岸沿線を有するのに加え，毎年襲来する台風や冬期の季節風等の災害防止・抑制に対する森林（林）の効果（防風・防潮効果）は大きく，この面の研究は多い．また一方，山地（比較的急な斜面勾配）から海岸線までの距離は短く，山地の開発などによる土壌の移動は短時日のうちに海岸線に流出し，土壌流亡等山地からの流出防止・抑制に対する森林の効果は大きく，その面の研究も重要である．しかしながら，現在この面からの研究等は全く行われておらず課題としてのこる．

（琉球大学農学部　幸喜善福）